

- 1) 話しことばか、書きことばか (文体)。
 - 2) 評価が入るかどうか (プラス評価・マイナス評価)。
 - 3) 意味の幅の違いはどうか。
 - 4) 時間的前後関係が存在するかどうか。
 - 5) 語の成り立ちによるもの、などなど。
- では、次にそれぞれについて見ていきましょう。

(1) この本を (a. 読んだら b. 読めば) わかる。

「～たら」と「～ば」を比べると、「～たら」のほうが話しことばとして使われることが多いですね。両者の違いは文体 (話しことばか、書きことばか) によるところが大きいです。

(2) 勉強 (a. しても b. したのに) だめだった。

(2) では、「～のに」には残念な気持ちや後悔の気持ちが含まれています。「～ても」にはそのような気持ちはあまり感じられません。評価が入るかどうかという点で、両者は異なっていると言えます。



(3) 私はもっと勉強 (a. ? するべきだ b. しなければならぬ)。

(4) 人間はいつかは (a. ? 死ぬべきだ b. 死ななければならぬ)。

(3) では、「～べきだ」が自分自身に使えない*のに対して、「～なければならぬ」は自分のことにも使えるという違いがあります。また、(4) では、「～べきだ」には忠告や助言の意味はあるけれど、「～なければならぬ」のような「当然そうなる」という意味はないということが言えます。これらのことは両者の意味の幅が異なることを示しています。

(5) 北海道に (a. 行ったら b. 行くなら)、あの店のラーメンを食べよう。

(6) 北海道に (×a. 行ったら b. 行くなら)、飛行機に乗ったほうがいい。

(5) (6) は時間的前後関係が存在するかどうかという問題です。(5) の前件「北海道に行く」と後件「あの店のラーメンを食べる」には時間の前後関係があります。ここでは「～たら」も「～なら」も適切になっていますが、(6) のように、「北海道に行く」と「飛行機に乗る」が同時に起こる場合は、「～たら」は不適切になります。つまり、「～たら」は前件が終わってから後件が起こるときに用いられるのに対し、「～なら」は時間的前後関係を必要としないと言えます。

(7) インターネット (a. を通じて b. を通して) 世界が広がった。

(8) インターネット (a. を通して b. を通じて) どんどん世界を広げてください。

「通して」は語源的に「通す」、一方、「通じて」は「通じる」という動詞から派生しています。「通す」が「彼は主張を通じた」のように意志的な意味合いを持つのに対し、「通じる」は「彼の主張が通じた」のように結果的な意味合いを持ちます。(7) では「世界が広がった」という結果表現が、(8) では「どんどん広げてください」という意志表現が来ています。どちらの場合も「を～通じて・を～通して」の両方が可能ですが、意志や働きかけを表す場合は、「を～通して」のほうが「を～通じて」より適切に感じられます。

以上、1)～5) の類義表現の違いについて見てきました。類義表現の違いを説明する方法のもう一つは、前回と今回勉強した「現象描写・判断・働きかけ」というとらえ方です。よく似た表現が、「現象描写」を表しているのか、話し手の「判断」を表しているのか、相手や他者に対して「働きかけ」をしているのかによって使い分けられる場合も多く見受けられます。

*「～べきだ」が「～べきだった」となると、「後悔」の気持ちを表し、自分自身のことにも使えるようになります。

(9) 私は学生時代にもっと勉強するべきだった。

参考文献

角田三枝 (2006) 「「接連接とモダリティの階層」とその応用」日本語学 vol.25

このコーナーの担当者：市川保子 (日本語国際センター客員講師)
このコーナーについてご感想や質問があれば送ってください。「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。
英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>です。